



2015. 10. 1

10月ようちえんだより

西神戸YMCA幼稚園

「勝ち組・負け組」といった言い方も、最近はあまり聞かれなくなりましたが、自分を「だめな人間、負け組」と決め付けてしまい、社会から引きこもってしまう若者がいます。しかし、何をもって「だめな人間」としているのでしょうか。他者との比較の中で「劣っているから自分はだめだ」とするのであれば、自分の人生を喜びをもって過ごすことは出来ないでしょう。また、何でも勝たなければ満足しない、何でも自分の思い通りにならなければ気持ちが治まらない、こういった「幼児的万能感」とも言うべきものを持ち続けている未成熟な人間も増えてきているような気がします。では、なぜこの様な自己肯定感の低い若者が生まれていくのでしょうか。

「失敗させたくない、悲しい思いをさせたくない」と思う親は、子どもにつらい経験をさせたくないというだけではなく、子どもの失敗は自分の失敗、自分の子育ての失敗ととらえて常に不安な気持ちでいるのかも知れません。そして、そんな親の不安な気持ちを子どもも敏感に感じて、失敗するのではないかと、失敗したらどうしようと、また不安な気持ちをかかえることとなります。さらに、日常の行動を様々指示され、そのスケジュールも管理された中で育った子どもは、自分で考えて判断することなく、またその結果を評価されることでしか、自分自身を確認できないこととなってしまいます。

「子どもの仕事は遊び」と言われるように、本来子どもは遊びを通して成長していくものです。遊びは他者から強制されるものでも、また評価されるものでもなく、自分の興味関心によって選び取り、工夫し、うまくいかなくても誰の責任にすることもなく、自ら「これでよし」として満足するものです。また遊びの世界の中で、「負ける時もある」「失敗する時もある」といった経験を重ねるなかで、自分自身を発見していく、自分の好きなことや得意なことだけではなく、嫌いなことや苦手なことも受け入れていくのです。

「負けるが勝ち」という言い方があるように、自分が本当に大切にすべきものを持っているのであれば、常に勝ち負けを争う必要もなく、一步引いて他者に譲っても自分にとっては問題ないと思えることや、また何でも出来るわけでもなく、また何も出来ないわけでもないということを受け入れていくことができることも大切なことなのです。一人ひとりに与えられた才能と能力が異なることは事実で、皆が同じ土俵で競う必要はどこにもなく、相互に異なる相手を認め合う関係を持つことが、豊かな人間関係にも繋がるのです。上手に出来るから偉い、良い成績を取ったから人間として値打ちがあるのではありません。与えられたそれぞれの才能（タレント）をどう他者のために役立てたかが重要であり、またそれが一人ひとりの人生の喜びでもあるはずなのです。

子ども自身が、自分に与えられた他者と比べる必要のない才能を自分自身で認め、また他者も認めていくなかで、これから直面するだろう様々な挫折や葛藤を乗り越えていくことが出来る「生きる力」を培っていくことを祈っています。

年主題 『平和』をつくる

<年主題聖句> 「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」

(マタイによる福音書5章9節)

10月主題 「ふれあう」

聖句 “わたしは主によって喜び、わが救いの神のゆえに踊る。”

(イザヤ書3章18)